

常なる磐

つねなる いわ

令和2年11月6日(金)
その1

◇ 校歴を紐解く⑥【航空写真】

<1991年(平成3年10月)移転新築5年目> 校長：鈴木秋男先生



<2020年(令和2年6月)移転新築34年目>



29年前(平成3年度)の移転新築5年目の航空写真と6月に撮影したもの(令和2年度)とを比較する。

【予備情報】

- ①児童数 H3：108名(男子49 女子59) R2：47名(男子29 女子18) →61名減少
- ②学級数 H3：6学級 R2：6学級 →同数
- ③職員数 H3：12名 R2：12名 →同数

※ちなみに、移転新築後の最多児童数は、平成9年度の149名(男子86 女子63)。

開校以降の最多児童数は、大正3年度(常磐東尋常小学校)の161名(男子86 女子75)である。

<変化がうかがえる点>

- ①校内外の樹木：撮影された季節は異なるが、29年で明らかな樹木の生長が確認できる。
- ②校舎の色：写真自体の色合いは異なるが、校舎や校内各所の壁の色が異なる。
H3は「真っ白」→白亜の校舎 R2は「灰色」→これは塗装の劣化とコケによるもの
校舎の屋根の劣化は激しい。体育館はあまり変化ないように見えるが、現在、雨漏りの修理を依頼中である。
- ③青木川側の校地法面の「トキワヒガシ」の植栽文字の有無。
※植栽はこの翌年(平成4年)に全校児童、職員、保護者によって行われた。
最初の植栽は「お茶」であったが、枯れにより「キンメツゲ」に変わり、現在に至る。
- ④学校前の青木川河川敷「せせらぎの広場」の有無。
※「せせらぎの広場」の完成は平成12年。植栽「ト」の下方の河川敷に降りる階段も平成3年は無い。うっそうとした樹木のように見えるのは山影である。
- ⑤グラウンド体育施設の有無と位置変化
朝礼台やトラックの位置と大きさが異なる。サッカーゴールの位置は南北から東西へ。バスケットゴールが確認できる。児童数の変化により、部活動数も大きく減少した。
- ⑥プールサイド 29年前より現在の方がきれいなのは、改修工事によるものである。
プールの管理棟の屋根の色も、改修工事の際に塗り直されたようで、同等に見える。
- ⑦校内の彩色タイルの色・昇降口前ピロティーからグラウンドに面する曲線階段の色
航空写真の撮影に向けて高圧洗浄機で洗浄したため、現在の方が鮮やかに見える。
タイルに付着するのは砂や泥よりも、圧倒的に「コケ」である。雨が降ると水を含み、滑りやすくなるため、たいへん厄介である。コケを取り除くことで安全性は高まったが、梅雨から真夏にかけて、また一気に増殖する。1年に2回はコケを除去する必要があることが分かった。

校舎の外装はかなりの劣化が見られるが、校舎内は移転新築34年とは感じさせないほど状態がよい。在籍した児童と勤務した教職員が学校を大切に使用してきたからこそ、今の状態がある。感謝である。

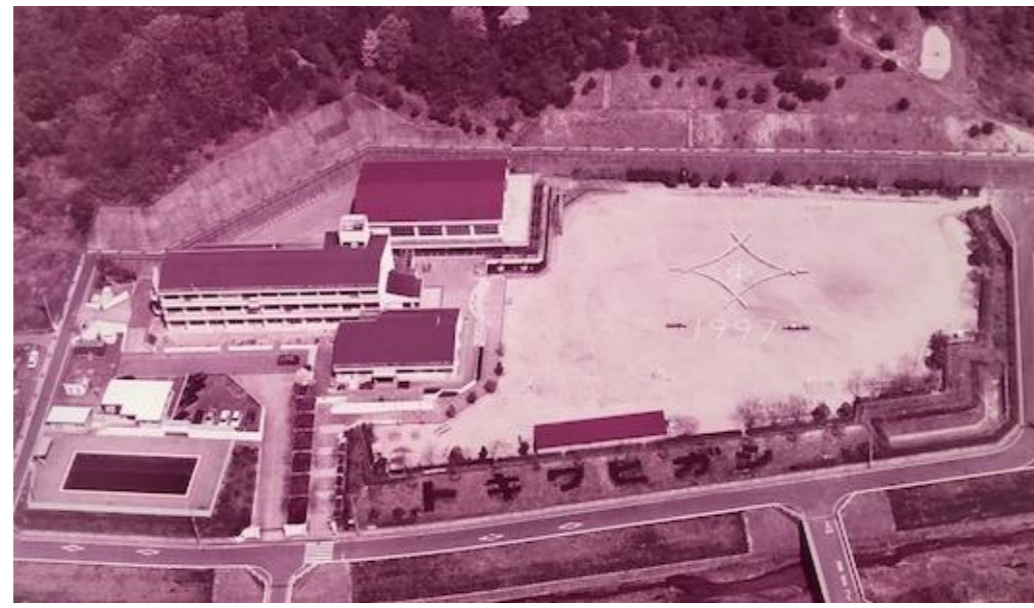
◆裏面にその他の航空写真や比較資料写真を掲載したので、併せてご覧いただきたい。

<1987年(昭和62年)移転新築年>



- ・樹木は幼木である。
- ・アスファルト部分が真新しい黒色。
- ・コンクリート打ちの部分は真っ白である。

<1997年(平成9年)移転新築10周年>



- ・植栽文字が施された。
- ・「ガ」と「シ」の字体が現在(R2)と若干異なる。
- ・まだまだ白亜の校舎

<2001年(平成13年)創立100周年>



- ・桜階段に咲き誇る「桜」が確認できる。
- ・老木桜となった現在と比べ、生氣にあふれている。
- ・若干校舎は黒ずむが、屋根の傷みは見られない。

★西門から見た校舎(昭和62年と令和2年)



- ・現在の校舎が黒ずんで見えるのは、陰ではなく「コケ」である。場所によっては「えんじ色」のシミとなる。
- ・大きな違いは、現在の写真の校舎手前の「なんじゃもんじゃ」の木の向こうに見える「東名青木橋」の存在である。 エアコンの室外機と配管が加わった。
- ・移転新築当時の写真を見ると、左奥に駐車している車の左側に「焼却場」が確認できる。現在は公害対策により撤去され、市全小中学校から姿を消した。
- ・現在の西門と校名石板は、補修により新築当初に近づけた？つもりである。